

道心



禅昌寺通信「道心」第43号

編集 日光山禅昌寺「道心」編集室

発行 平成 26 年 1 月 1 日

〒732-0002 広島市東区戸坂山根 3-2-7

TEL 082-229-0618 FAX 082-229-0822

E-mail: zenshotaiken@gmail.com

ホームページ http://zenshoji.org/

改歳之令辰

旧年中のご厚誼に感謝し、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。年々月日が過ぎゆくのが早く感じられ、あつという間に一年が過ぎてしまいました。

光陰は矢よりも迅かなり、
身命は露よりも脆し、
何れの善巧方便ありてか
過ぎにし一日を復び還し得たる

これは修証義第五章の一節で、道元禪師が正法眼蔵行持の巻でお説きになったものです。現代語訳すると「月日の経つのは矢よりも速く、人の命は草の葉に宿る露よりもはかなくもろい。いかに巧みな手段をもってしても、過ぎ去ってしまった一日を取り返すことはできない」という意味になります。

この二年ほどあまりにも忙しさに、多くの方々との出逢いや向き合う機会を失っていたように思い、この言葉を強くかみしめる今日この頃です。

例え長生きをしたとしても、その人生に仏の行いがなければ、虚しく悲しい人生と後悔することでしょう。如何なる時にも自分の行いが仏様の行いとなるよう更に精進努力しなければと、心新たに新年を迎えております。

昨年は、開創四百周年の準備が本格的に始まり、企画書を皆様にお届けいたしました。現在百戸ほどの皆様からご協力が振り込まれてきております。早速のお振込誠に有り難く存じております。

また、私が勤めておりました曹洞宗中国管区教化センター（尾道市天寧寺所在）におきましては、去る十一月十九日に市内ホテルにて開設四十周年の記念行事が開催され、中国各県より総勢二百名を超える参加者があり盛会裡に円成いたしました。思えば今から四十年前に禅昌寺に開設された宗門の機関であり、感慨深いものがありました。これを機に、当初依頼された目的の大半は達成されたものと理解し、十二月末日をもって中国管区教化センターの主監を辞任いたしました。在任一年と九ヶ月でありましたが、この間東堂様をはじめ檀信徒の皆様には、大変ご迷惑をお掛けしたことをお詫び申し上げます。今後は、当山四百周年に向け皆様と共に精進してまいりたいと存じます。

北陸三十三観音

霊場巡りに参加して

禅昌寺開創四百年記念事業実行委員長 中山俊郎

北陸三十三観音霊場巡りは、平成

二十四年秋から参拝が始まり、二十五年春、秋の三回で終わりました。北陸の高岡市は私の生まれ故郷であり是非参加させて頂きたいとの想いで参加いたしました。なかでも十五番札所となっている能登の總持寺祖院は、私にとって五回目の参拝でした。最初は、里の兄に案内され、その後、禅昌寺檀信徒の大本山永平寺参拝団に参加し、永平寺参拝後の能登観光で二回、能登大震災後の三年前方丈様と責任役員の皆様と一緒に、方丈様の晋山式の西堂（後見役）を今村源宗老師（總持寺能登祖院監院）にお願いに上がった時に三回、また檀信徒の皆さんと今村老師へお世話になった御礼のご挨拶の時、そして春の霊場巡りで五回目になり、再び今村老師にご挨拶が出来ました。

一番札所から三十三番札所まで各霊場の観世音菩薩の前で先達の東堂様を中心に開経偈から妙法蓮華経観世音菩薩普門品偈をお唱えし、健康と安穩な暮らしを祈念いたしました。

最後の結願所法福寺の参拝が終わり夜は富山県魚津市の金太郎温泉で全員楽しい一夜を過ごし、翌日は御本山永平寺に参拝、夕方広島に帰ってきました。

さて、観音信仰が日本へ入って来たのはインドから中国、朝鮮を経て九州、北陸方面から渡来したとのこと、その代表的なものが西国、板東、秩父等の観音霊場です。北陸はまだ日が浅く若狭、越前、加賀、越中の観世音菩薩有縁の霊場を選んで各県十一ヶ寺を選出、「観音浄土の霊場」として発足したようです。

北陸三十三観音霊場は西国に比べ、まだ観光化されておらず、その土地の自然の中に溶け込んだ素朴な霊場が多く、設備が今少し調っていない霊場も多く見受けられました。

この度、秋の巡拝で最初に参拝したお寺が特番ではありましたが、広大な敷地に立派なお寺が建っております。俱利伽羅峠の石川県側に在る俱利伽羅山不動寺西の坊鳳凰殿です。書物によれば平成十年に建立され平安建築をもとに樹齢千年を越える台松木材も使用、左右七十五メートルの壮大な寝殿造り、主殿の三仏堂には不動明王、薬師如来、千手観音菩薩がお祀りされており、この千手観音菩薩は平成十四年に仏師小林宏氏が平安時代の作風を基盤に謹刻奉安されたものです。

観世音菩薩はご承知の通り端整微妙なる慈悲にあふれるお姿であり、私共に御縁の深い仏様です。

檀信徒の皆様にはご案内の通り禅昌寺開創四百年慶讃記念事業として観世音菩薩像と遊歩道の整備を予定しており、すでに企画書をご確認頂いていると思います。

四季折々の花が咲く遊歩道を整備し、豊かな自然の中で観音信仰の霊場として観音大慈悲の懐に包まれ無限の利益にあずかる人生最高の喜びがあります。ご案内の通り檀信徒一戸当たり三口以上の御協力を御願ひ致しております。出費多端な折とは思いますが、平成二十六年十一月末までにお振込頂ければと願っております。

足を知る

矢野淑子



これは「吾唯足知」と、読みます。唯を字引で引くと ひたすら・せつにもつぱら

人それぞれ「幸福の度合い」も「生活環境」も、違い、何を幸せと感じるか。有り余る財産を手にした、そう云った事に、幸せを感じるといふ人もいます。これは、どこまでも「青い鳥」を、追いかけるに過ぎませんし、物質領域の幸せには「もう、これで十分」と、云う事がないのです。

そして、人間としての道義を忘れて、富者になったのでは、そこに安住しない。

世の中、物質的に豊になることを、認めてはいるものの、清貧の生き方ばかりが尊いわけではありませんが、

金持ちでないことを、憂うものでもなく、金持にふさわしい人間であるかが、大切なのです。



「足を知る者は富む」と、云う言葉があります。

どんな状況にあっても、そこに満足感を見い出し、不平不満を云わない。つまり「足る者」と、して生きたら、豊になるという事なのです。

これは心の豊かさであり、物質的な豊かさではありません。その究極のかたちは「生きているだけで十分」と、云う事です。

私も歳を重ね、身体も少々痛んでまいりましたが、現在の小さな幸せに――、「足るを知る」を、心に止めながら過ごしております。

「足を知る」すなわち「足る者」として生く今を豊に、春の花咲く
淑子



ご存じでしょうか、参考までに。

* 京都の龍安寺にも、この「足を知る」の石があります。

その石は、寝せてあり「口」の、字の箇所には「なみなみとした水」が入れてあります。この石は「レプリカ」です。

* 本物は「徳川光國」(テレビでは・水戸光國公)が、寄進されたと云われています。

* お茶室の脇に置いてあり、非公開です。龍安寺の、あの整然としたお庭には、大小合わせて、十五個の石が置かれております。

* 清貧―ことさら、富を求めないで、行いが淡泊で、貧乏に安んじていること(―に甘んじる)

ご紹介

これから約三年前、坐禅会に参加されていた田中伴子さんが、禅昌寺の檀信徒に成りたいと云われたとき、私はとても嬉しく思いました。長年に亘り東堂さんと共に坐禅を組まれ、私が住職すると共に檀信徒になられたことは、何よりもの励みとなりました。また、大掃除の時やお寺で行事がある時など率先してお手伝いをして下さり大変助かっております。ここに田中さんをご紹介します。

禅昌寺さんと人との出会い

五十代の頃五月初め、禅昌寺さんの門をくぐり、坐禅と人との出会い、毎週金曜日婦人坐禅会に参加させてもらい、今七十八歳になりました。

呉の老婦人(四十年余りの付き合い)に、ある時「あなた、この頃いい顔になったね」と云われたのが坐禅会に参加して四、五年位経った頃かと思えます。

色々な事がありました。苦労と思わずガムシヤラに過ごしてきましたが、身体に顔に出して、キツイおばさんの顔だったのでしょうか。

いい顔と云われ感じたのは、坐禅のあとお茶をいただきます。東堂さん、方丈さんが、些細な事でも何かあれば「このお寺に捨ててお帰りなさい」と云われ、私の様な者でも今日までいい顔に少しはなれたと感謝、感謝、健康で過ごさせてもらい、自分に出来る範囲の事をこなせるよう更に精進して参りたいと思います。

田中伴子

ご報告

十五年の長きに亘り、禅昌寺の境内や墓地の管理清掃に従事して下さった松浦利昭さんが十二月末日をもって退職されました。松浦さんは禅昌寺の檀信徒として利他行の精神をもって、長年に亘り当山の護寺護法にご貢献ご努力されました。ここに禅昌寺を代表し深く感謝申し上げます。

今後は、八月から五ヶ月ほど松浦さんのご指導を受けた、同じく檀信徒の水越健次さんが引き継がれましたので、皆様宜しくお願い申し上げます。

退任のご挨拶

小生、松浦利昭は平成十年一月十日でマツダ株式会社を退職し、春先までブラブラしていました。

我家の前の道路で竹箒を片手に一息入れていた時、ご近所の三浦さん宅へ月命日として来られた東堂さん(前方丈さん)に声を掛けられ、禅昌寺へ手伝いに行く事になり、先輩の為岡さんの指導を六ヶ月間受けました。

一人で仕事をやる様になって、自分なりに工夫してゴミ集めからお参りの人が第一に目に留まる所、場所を重点的に清掃する様に心掛けました。これを水越さんにも実践して戴きたいと思えます。十五年余り勤めさせていただき、私自身健康的に過ごすことができ、お寺へ行つて清掃を行う事を時間通り熟す事ですごく健全な生活が出来たと思えます。

退職してからの仕事としては最適なお寺でした。

何かのご縁があったのか判りませんが、小生が生まれ育ったお寺も曹洞宗(正法寺)で、共に繁栄してもらいたいです。甚だ簡単な文章にて、悪しからず。

松浦利昭

◆行事報告◆

(平成二十五年一月〜十二月)

●年頭坐禅会

正月元旦 午前八時より

五名程度の参加者でしたが、清々しい念頭となりました。

●新年修正会 (大般若祈祷会)

正月元旦 午前十時より

厳しい冷え込みの中、大勢の参拝者で賑わい、家内安全、災障消除、諸縁吉祥をお祈りいたしました。

●青山俊董老師講演会

二月二十八日(木)

正法眼蔵四摂法巻の御提唱

七十名ほどの参加者があり、皆さんと共に法悦に浸りました。

●彼岸会法要・護持会総会

三月十七日(日) 午前十時半より

百五十名ほどの参拝者があり、例年通り彼岸会法要引き続き、護持会総会が開催されました。

●第二回北陸三十三方所観音霊場巡り

四月十八日(木)〜二十日(土)

第十五番總持寺祖院(石川県)から第二十四番国泰寺まで十ヶ寺を十九名の参加者と共に巡りました。温泉に浸かりながら北陸の豊かな自然を楽しみました。



北陸三十三カ所観音霊場第15番總持寺祖院にて 写真中央今村老師

●お盆前諸堂大掃除

七月二十八日(日) 午前十時より

三十名程のご奉仕により一時間半で終わりました。ご奉仕の皆様お疲れ様でした。

●孟蘭盆会法要

八月六日(火) 午前十時半より

例年同様約百五十名の参拝者で賑わいました。

●青山俊董老師講演会

九月三十日(月)

正法眼蔵四摂法巻の御提唱
七十名ほどの参加者があり、大変分かり易い老師のお話を聞き、皆が法悦に浸りました。

●お月見コンサート

十月十九日(土) 午後十八時半より

今年は、大代啓二先生のお力添えにより、箏奏者として世界的に活動なさっておられる沢井一恵先生を再びお迎えすることが出来ました。

大代先生のフルートと沢井先生の箏、そして沢井先生のお弟子さん達も加わった箏五重奏に、三百名を超える参加者は魅了され、深い感動を味わいました。

●第三回北陸三十三方所観音霊場巡り

十一月十四日(木)〜十六日(土)

第二十五番蓮華寺(富山県)から第三十三番法福院(富山県)まで九ヶ寺と永平寺を二十二名の参加者が東堂夫妻と共に巡りました。

●臘八摂心坐禅会

十二月一日(日)〜八日(日)

例年通り坐禅会の皆さんと共に坐らせていただき、誠に有り難い摂心でした。途中住職が風邪をこじらせてしまい、ご迷惑をお掛けしました。

●年末諸堂大掃除

十二月八日(日) 午後一時より

二十名程のご奉仕により一時間半で終わりました。ご奉仕の皆様お疲れ様でした。

◆行事案内◆

(平成二十六年一月〜十二月)

●年頭坐禅会

・正月元旦 午前八時より

●新年修正会(大般若祈祷会)

・正月元旦 午前十時より

新年のご祈祷会です。

家内安全、災障消除、

諸縁吉祥等を

ご祈祷いたします。

●青山俊董老師講演会

・二月二十八日(金)

正法眼蔵四摂法巻の御提唱

午前の部 十時半〜十二時

午後の部 一時半〜三時

参加費 午前午後 各千円

昼食代 一人 百円

*坐禅をされる方は九時より

*昼食を希望される方は、予め電話

にてお申し込み下さい。

●彼岸会法要・護持会総会

・三月十七日(月) 午前十時半より

例年通り、彼岸会法要引き続き護

持会総会を開催致します。お弁当

とお茶を準備してお待ちいたして

おります。

●お盆前諸堂大掃除

・七月二十七日(日) 午前十時より

お子さんお孫さんとご一緒にご参加

下さい。二時間ほどで終わります。

お昼を準備してお待ちいたして

ります。

●盂蘭盆会法要

・八月六日(水) 午前十時半より

法要引き続き法話がございます。

●青山俊董老師講演会

・九月三十日(火)

正法眼蔵四摂法巻の御提唱

午前の部 十時半〜十二時

午後の部 一時半〜三時

参加費 午前午後 各千円

昼食代 一人 百円

*坐禅をされる方は九時より

*昼食を希望される方は、

予め電話にて

お申し込み下さい。

●お月見コンサート

・十月四日(土) 予定

*現在、内容や日程について調整中。

●臘八摂心坐禅会

・十二月一日(月)〜八日(月)

午前 五時半より六時十分まで

午後 七時 より八時半まで

*年内の坐禅会は、

八日の早朝坐禅をもって

お休みします。

●年末諸堂大掃除

・十二月七日(日) 午後一時より

お子さんお孫さんとご一緒にご参加

下さい。二時間ほどで終わります。

お茶とお菓子を準備してお待ち

しております。

毎月定例行事

●上田宗箇流茶道稽古日

毎月一回 第四金曜日午後一時から

※お抹茶と和菓子を気軽に楽しむつ

もりでご参加下さい。

●御詠歌の会

第二金曜日午前十時より自主練習

第四金曜日午前九時より講師を招

いて練習 昼まで

◎茶道の稽古及び御詠歌の稽古は講
師の都合により変更する場合もあ
ります。初めて参加される方は、
電話にてご確認下さい。

毎週定例行事

●暁天坐禅会 月曜日〜金曜日

毎朝午前五時半〜六時十分まで

●水曜坐禅会 午後七時より

坐禅・茶話会 終了八時半

●婦人坐禅会 毎週金曜日

午後一時より坐禅・茶話会終了三時

(第二金曜日のみ坐禅の後、写経・

茶話会)

原稿募集

皆様の随筆、旅行記、体験談、
趣味の短歌俳句など何でも結構
です。お寄せ下さい。

